

避難所でもある 西長野交流センターの屋根補修を早急に！

蒼生会 小林 幸悦 議員

市長 物価変動を確認しつつ適切な対応を行う

西長野交流センターの今後の在り方について

質問 西長野交流センターは災害時の避難所や選挙の投票所等として利用され、体育館は、多くの方が毎日のように利用している。屋根の状況が非常に悪く、塗装については予算化できず、このままだと屋根の劣化だけでなく、雨漏りによる天井、壁、床が傷み、荒廃していくと考えられる。今後のセンターの在り方、屋根の工事を実施した場合の工事費について伺う。

答弁 今後の在り方については、令和2年度に公共施設等総合管理計画の個別施設計画で、方針としては部分廃止、今後10年後を目途に体育館存続と譲渡の可能性を検討することになっている。令和5年度に総合計画、総合管理計画の見直しを予定しており、丁寧な住民との対話を通じた検討を重ねていきたい。

平成25年の体育館の屋根吹き替え工事の見積り額は、約2,600万円だった。旧校舎側の屋根吹き替え工事も、同程度か、それ以上の金額と推測され、現在は物価変動に

より、大幅に上がっているものと推測される。見積金額の上昇を確認しつつ、適切な対応を行っていく。

老朽化が著しい市営住宅への対策は

質問 岩瀬住宅が老朽化しており、災害時に大丈夫なのか心配である。トイレの水洗化、下水道の状況、住宅の戸数と入居戸数について伺う。また、市営住宅戸数と入居率、耐震性のない住宅の入居者への対応、老朽化が著しく解体を考えている戸数について伺う。

答弁 岩瀬住宅は6棟33戸あり、入居戸数18戸である。新耐震基準では耐震性がな

いと判断され、上水道は接続されているが、下水道及び浄化槽への接続はされていない。全体の市営住宅は、政策的空き家を除いて236戸あり、入居率は93.22%である。耐震性のない住宅の入居者には意向を聞き、耐震性のある住宅への転居等を提案していきたい。また、現在の除却予定戸数は21戸である。

旧角館公立病院解体の見通しは

質問 平成29年に新病院に移転してから5年が過ぎたが、旧病院の解体の見通しと現在の解体工事費について伺う。また、管理棟は市の書庫として利用したいとの説明があったが、今も同じ考えなのか伺う。

答弁 旧角館総合病院解体に関する実施設計は完成しているが、その後、

土壌汚染やPCB調査等が必要となり、更に令和5年度にアスベスト追加調査等を実施することになり、その後に解体工事を行う。

令和元年度作成の実施設計では、旧病院全体を除却する設計で、解体費は5億4,000万円弱であったが、アスベスト

処理に関する規制強化や建物解体関連単価の上昇があり、現時点での解体費は約6億5,000万円と想定している。

管理棟を公文書センターとする案については、ワーキンググループで検討しているが、施設管理や財政上の諸問題も含め、結論に至っていない。

(小田島広仁記)



■一向に利活用や解体が進まない旧角館公立病院

小・中学校のトイレ環境の早期改善を

西宮三春議員



教育長 児童生徒の教育環境の向上のため、是非実現したい

小・中学校におけるトイレ環境の改善について

質問 先日、市内すべての小・中学校を訪問し、トイレの状況を確認してきたが、洋式のトイレを増やすこと、悪臭がするトイレの改修を早期にできないか。

答弁（教育長） トイレの洋式化は、教育環境の改善、コロナ禍における感染症対策としての効果も期待されている。教育委員会ではトイレ整備に関して、各トイレに一つ程度和便器を残し、他は洋便器とする方針のもと、改修工事を来年度から計画的に実施する。

せんぼくこまくさプラン事業の継続と絶え間ない支援を

質問 コロナ禍等の経済支援として、無料で生理用品を提供する「せんぼくこまくさプラン事業」における一般の方への支援について、毎月の利用者数と今後も事業を継続していくのかについて伺う。また、周知方法及びナプキンの種類を増やす予定はないのかについて伺う。

答弁 昨年7月の開始から14

カ月で480個、月平均34個、34人の利用、カード交付は、全体で175名。周知については、市のホームページに掲載している。利用状況にに応じて広報誌にも掲載したい。

ナプキンの種類について要望は出ていないが、要望があれば検討したい。貧困に悩む女性のために始めた事業なので今後も継続して取り組む。

質問 学校でのこまくさプラン事業の周知方を伺う。また、この事業が開始されてからの性教育について伺う。

答弁（教育長） 学校での周知については、学校報、養護教諭の働きかけにより周知。性教育については、小学校は、体育の保健分野で体の成長について指導。また、特別活動において初潮指導を行っている。

中学校は、保健体育科において性について計画的に指導し、性教育講座として、医者や専門家から講話を聞く時間を設けている。子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、絶え間ない支援に努めている。

旧西木公民館、冬の安全対策について

質問 旧西木公民館の道路側にあったブロック塀は、昨年度の落雪により壊れて撤去された。西明寺小学校の通学路であり、ブロック塀が無くなって最初の冬を迎える前に次の点を伺う。

①旧西木公民館の解体時期について

②想定される落雪による安全対策について

答弁 ①については、除却予定であるが、現在、利活用を希望する地元の方へ売却して、その後解体する方向で協議中であり、実現に向けて努力したい。

②については、2年続けた大雪で、冬期間の施設管理も非常に難しいが、通学路でもあり、市民の安全を第一に考えて、積雪状況を確認しながら安全対策を実施する。

市民が利用しやすい庁舎開放を

質問 市民に開放している角館庁舎が、利用時間内でも施錠されていたり、休日は、駐車場に近い出入口が開かないなど、市民から、利用しにくいとの声があるが、理由を伺う。

答弁 21時30分まで利用可能だが、利用者がいないと防犯上施錠していることがあった。今後は利用時間まで施錠しない。また、土日・祝日は、防犯上、駐車場の出入口は施錠している。正面玄関から出入りいただくよう市民の皆様にも更なる周知を行う。

（中村和彦記）



■落雪等の安全対策が必要な旧西木公民館

収入が聞きたい 7人の提言 収入を上げ行政サービス向上への施策を！

小田島 広仁 議員

市長

活用できるあらゆる方法を模索し 収入の向上へ繋げていく

収入を上げる具体的な施策や今後の企画について

質問 収入を上げるための現実的な可能性を伺う。

答弁 財政健全化の実現には歳出の抑制だけではなく、国、県補助金等の特定財源の活用やふるさと納税寄付金の増収対策に、これまで以上に取組むとともに、自主財源である使用料や手数料等の見直しも検討していく。

質問 人口減少や経営環境の悪化から、収入の要としてふるさと納税の返礼品に仙北市ならではの物品や、体験型の商品を用意していくべきではないか。

答弁 当市にとってふるさと納税は大変貴重な収入源であり、ふるさと納税が無ければ財政調整基金はすでに枯渇していた。

令和3年度は前年度より減収している状況を重く受け止めた上で、今年度は、返礼品の撮影などの経費を助成するなどして、昨年度の2.7倍の823の返礼品がラインアップされている。

今後の商品造成については、主力の食品系だけではなく

くアフターコロナを見据え、旅行系の商品造成に力を入れていく。仙北市の観光地としての強みを活かし、観光需要とふるさと納税がマッチした商品の造成に力を注いでいく。

さらに、市と中間業者による顧客管理を徹底し、丁寧な対応を心がけり。ピーター獲得に取り組む事で、仙北市の地域活性の活力に繋がるように進めていく。

質問 収入を上げるために入湯増税についてどのように考えるか。

答弁 本市の入湯税率は条例により一人一日150円と規定しており、地方税法に定める標準税率と同じである。本市において貴重な財源と認識しているが新型コロナウイルス感染症が続く中、温泉施設に影響を与えることを考えると慎重に検討していく必要があると考える。

「返礼品なし」劇団わらび座応援寄付について

質問 ふるさと納税として、返礼品なしで一企業だけを助けるための商品を用意したことが問題になり、中止となっ

たようだが、この件についてどう考えているのか。

答弁 ふるさと納税は高い公益性、透明性が求められることから、一企業であるわらび座を支援するには向かないと考え一度お断りをしたが、再度協議した後、制度上の問題がないという理由と、今回の仕組みを内陸線にも活かせることから併せて開始したが肯定的な意見も頂戴した一方で、反対意見にも正当性があり4月22日に中止した。

今後はこのようなことがないよう市政運営に慎重に取り組み、ご迷惑、ご心配をお掛けした全ての皆様にお詫びしたい。

今年度のプレミアム商品券について

質問 今年度は、希望した冊数を購入できなかった市民が多かったようにだが、抽選方法を教えていただきたい。また、この事業でのトラブルや市民からのご意

見、ご要望などはなかったか伺う。

答弁 プレミアム商品券は、仙北市商工会が事業主体である。今年度は、発行冊数を大幅に上回る申し込みがあり、希望通りの冊数に満たなかった方もいたようだが、一冊も当選しない世帯はないと聞いている。抽選方法等の問い合わせには、答えられないことの同意を得て申し込みをいただいている。この事業での特段のトラブルは発生していない。2回目の販売についての問い合わせや、大型店で使える券を増やして欲しいなどの要望があったようだ。

(澤田 雅亮 記)



発行冊数を大幅に上回る申し込みがあった「プレミアム商品券」



中村和彦 議員

内川橋から岩瀬橋付近までの 桜並木を名勝指定にできないか！

市長

専門的見地からの指導を仰ぎ指定が可能か検証する

JR角館駅周辺の整備等について

質問 角館駅東公園の環境整備計画はあるのか。

答弁 角館駅東公園は緑豊かな植栽やベンチ、東屋の設置により交流と憩いの場を創出し、スポーツ、レクレーション等、多目的な活動の場のオープンスペースとして今後も適正な管理をしていく。

質問 遊具や砂場の設置は考えていないのか。

答弁 (建設部長) 広いスペースを保持する芝生広場という位置づけで遊具も1基にしている。砂場もスペースに十分な検討が必要である。

質問 トイレの洋式化は出来ないか。

答弁 (建設部長) 以前から要望があり、近いうちに洋式化したいと考えている。今後の予算化に向けて、全体の予算の中での優先順位等を検討していく。

質問 駅東西自由通路について市長はどの様に考えているか。

答弁 過去にも一般質問があったが事業費が膨大であるということから、正直、今の仙北市の財政状況を鑑みる

と、なかなか実現はむずかしい。

落合運動公園周辺の景観について

質問 土手の桜等は整備が進んでいるが、球場裏手の残土や雑木を処理し、景観形成をして、観光客や市民に活用していくべきと思うがどうか。

答弁 残土については、旧角館病院解体時に利用を予定している。解体後の当該地の景観については、別途残土置き場を設定し、景観に配慮した管理を検討したい。

質問 内川橋から岩瀬橋近くまでの桜を新たに名勝指定して、現在の2kmの桜ロードを日本一の5kmにするこ

とで、観光客の分散化と新たな魅力の創出に繋がり、滞在時間も延長するのではないかと思うがどうか。

答弁 桜保存管理協会や文化庁



■内川橋から岩瀬橋間の桜並木(落合運動公園付近)

等の専門的見地からの指導を仰ぎ、文化財指定が可能か検証していく。景観維持や観光資源としての活用バランスを考えつつ、桜の保護に努めていく。

仮称、お祭り会館について

質問 お祭り会館について、過去に何度も質問があったが進展がない。その重要性について市長の考えを伺う。

答弁 曳山公開展示施設整備検討委員会を設立し、平成31年1月30日付けで報告を受けている。報告を受けた建設場所は旧中町庁舎敷地であるが、旧中町庁舎及び敷地は譲渡の方針で今に至っている。季節を問わず観光資源としての価値を観光客に提供できる観点から、お祭り会館の必要性は感じている。市の財政状況の改善度合いを見ながら今後も検討していく。

道の駅構想について

質問 これまで多くの議員が道の駅について質問してきたが、現在の状況はどうなっているのか。

答弁 設置に向けて様々な課題を解決しなければならないと考えている。6月に農産物直売所施設について認定農業者にアンケート調査を実施した。また、7月に直売所連絡協議会総会場で意見を伺ったところ、販売する農産物を取りそろえることが困難な状況にあり、否定的な意見が多かった。今後さらに調査分析を行っていく。

(荒木田俊一記)

仙北市の観光を、今後どうされたいか

澤田 雅 亮 議員

市長

来年度からの新たな「第三次観光振興計画」に しっかりと盛り込みたい

仙北市観光振興計画 について

質問 来年度から実施の仙北市第三次観光振興計画の策定を、外部委託する理由と応募件数、委託候補者を伺う。

答弁 これまで職員が手作業で策定してきたが、コロナ収束後の新しい生活様式やデジタル化の加速化など、刻々と変化する観光ニーズに対応する観光施策と将来展望を見据えて委託事業とした。応募は5社あったが、株式会社J R東日本企画秋田支社が受託候補者に決定した。

質問 第二次観光振興計画を2018年から実施し今年度が最終年度である。コロナ禍3年目となったが、計画の見直し等は行ったのか。また、

計画の具体的なアクションプランの成果を伺う。

答弁 (観光文化スポーツ部長) コロナの状況が非常に不透明なこともあり、特段見直しはしてこなかった。ウイズコロナ時代を迎え、観光協会、観光DMOとさらに連携した観光振興を進めていきたい。

答弁 プロジェクト1の温泉活用プランは、仙北市次世代ヘルスケア産業推進協議会設置、疲労ストレス測定器による温泉入浴効果分析。一般的適応症と泉質別適応症を整理して、温泉法で定められている10の泉質の内、8泉質を持つ仙北市で温泉につかることで得られる効能等を明らかにできた。

プロジェクト2の何度も訪れたいまちづくりでは、イン



■計画は、実践が伴って生きてくる

バウンド向けの旅行商談会や台湾の中学校との交流をオンラインに切り替えた。教育旅行は、県内や隣県への誘致活動を行ってきた。

プロジェクト3の市民主体のまちおこしでは、市民コンシェルジュや観光教育は、市内小中学校や大曲支援学校せんばく校で取り組みが進んでいる。市や観光協会との連携は、更に強化が必要と考えている。

質問 第二次振興計画でのサービス向上の取り組みを伺う。

答弁 年間通して、乗合タクシーの導入、時期限定で抱返り溪谷へのシャトルバス運行などに取り組んできたが、コロナの流行や需要が限定的で中止した。現在は、臨機応変な対応がとれる「よぶ・のる角館」の巡回バスを角館エリアで実施している。

消防団員の処遇について

質問 消防庁が、団員級の年額報酬を3万6,500円、出動報酬災害時、1日当たり8,000円と定め、各市町村に報酬等の検討を求める旨の通知を出しているが、仙北

市の対応を伺う。

答弁 年額報酬は、団員級が3万円から3万6,500円に、火災・風災害等出動手当は、1日4時間以内は、5,000円、4時間を超えた場合は、8,000円の支給で検討している。条例改正を進めて参りたい。

質問 報酬、手当の支給方法について伺う。

答弁 (危機管理監) 年報酬については、個人の口座に振り込み、出動手当は、消防団にまとめて支払っている。配分の仕方は、分団ごとに決めて頂いている。

マイナンバーカードの取得率向上について

質問 8月14日現在で仙北市の取得率は36.6%と伺った。市の目標数値と市の職員の取得率を伺う。

答弁 仙北市の取得率は、県内自治体平均65%を大きく下回っている状態であり、まずは50%を目指したい。市職員の取得率は、7月末時点で、43.1%であり、まずは自分たちから取得率を上げる取り組みをしたい。

(平岡 裕子 記)

菅沢踏切から国道 105 号線までの 道路改良を急ぐべきだ

蒼生会 青柳 宗五郎 議員



市長 引き続き可能性を追求していく

菅沢踏切から国道 105号線までの道 路改良について

質問 合併前の角館町時代から要望があった角館町上菅沢地区の県道広久内角館停車場線の道路改良については、早急に安全性を確保し、渋滞緩和へ向けて改良に取り組むべきと考えるが、市としてはどのように考えているのか。

答弁 この区間の道路改良に関する県に対する直近の要望は、平成24年、地元5町内会より仙北市長へ要望書が、市議会議員長へ請願書が提出され、平成25年3月仙北市長並びに議会議員長より秋田県知事へ要望書を提出している。さらに、秋田県議会議員長へ陳情書を提出している。

仙北地域振興局建設部が道路改築計画策定のための意見交換会を平成26年27年に2回開催し



■早期改良が望まれる上菅沢地区県道

ているが、県では拡幅を伴う改良ではなく、道路の幅を変更せず、道路幅内での整備計画を示したが、関係する町内会のうち一つの町内会より、拡幅なしの計画では承服しかねるという文書回答が提出された。

他の町内会では、県の示した計画案でも良いという回答もあることから、3回目の意見交換会を開催したが意見集約はできず、県としては地元

ることはないので、要望者である五つの町内会の意見集約を図った後に、もう一度意見交換会を開催することとしている。

その後の意見交換会は開催されていないため、五つの町内会の意見集約ができていないと思われる。

この区間の道路改良は交通安全において必要なことと考えるので、今後も県との情報交換に努め、引き続き改良の可能性を求めていく。

元J A角館より購入 の角館駅前土地利 用について

質問 この土地を購入したいきさつは。

答弁 元J A角館の土地に関しては、秋田新幹線開業時の角館駅前整備と同時期に行われた、角館町道駅北線の改良事業（駅前ロータリーから県道257号線交差点まで）で当該敷地を利用したものと認識している。

質問 角館駅の利用者からは、田町山の駐車場は不便だと声を聞くが、利便性を図るためこの土地を駐車場として整備をしてはどうか。



■さらなる利活用が望まれる角館駅周辺の土地

答弁 現在は、冬期間の除排雪場所として活用しているが、今後の駅前の利活用に関しては、様々な選択がされる状況と考えるが、市が保有する空き地活用等については、売却も含めて様々な可能性を検討していきたいと考えている。

（真崎 寿浩 記）

抱返り溪谷の夏瀬温泉までの遊歩道整備を

蒼生会 真崎 寿浩 議員



市長

県に要望しているが具体的な計画はない

抱返り溪谷周辺の整備について

質問 遊歩道のみならず安全柵の設置状態、街灯等の安全対策と、緊急時の対応について（常設対応の必要性）伺う。

答弁 これまでも安全柵が落石等により損傷が起きた際は、修繕等を行ってきた。安全柵の嵩上げ等に関しては、県とも十分に議論をしていく必要がある。一方、照明は基本的に夜間の通行を防ぐ意味合いから、玉川左岸、白岩側の第二駐車場から上流は整備する必要がないと考えている。

ただし、玉川右岸、神代側の抱返り神社から神の岩橋までの部分については、第一駐車場から近く、夕暮れ時の歩行も想定し、平成30年度LED照明を整備した。緊急時の対応は、将来的

には遠隔カメラやセンサー設置などが想定されるが、引き続き県と調整したい。

質問 受け入れ体制のさらなる充実を求める。

答弁 ①通年観光の体制づくり
②遊歩道未整備区間の整備に関して県に対する働きかけと具体的な計画について
③駐車スペースの整備
④夏瀬温泉へのアクセス整備
⑤遊歩道の歴史的背景や経緯を活かしての整備



■抱返り溪谷のさらなる安全対策を

きい時期は、閉鎖せざるを得ない。

②回顧の滝から飯村少年弔魂碑までの復旧工事が終わったが、夏瀬ダムまでの未整備区間についても、引き続き県に要望しているが具体的な計画はない。今春に回顧の滝の展望スペースの損傷も含め、早期復旧に向けた要望を続けていく。

③利用者の季節変動が大きく、市で新たな駐車スペース等の整備予定はない。

④市道夏瀬線を平成26年度より過疎対策事業で道路改良工事を行っており、今年度も発注に向けて現在準備中である。

⑤遊歩道が森林軌道を活用して造られているなどの情報は看板やチラシなどに記載されているが、紅葉期以外の新たな誘客につながる可能性もあり、まずは私たち市民が歴史を認識し、観光客の皆様にもお伝えできるように努力したい。

水道事業について

質問 市の水道の供給体制は万全か。

答弁 本市の水道施設は昭和40年代から50年代に完成した

ものが多く、老朽化に伴う漏水等が頻発している。計画的に老朽化対策等の事業を行うため仙北市水道事業基本計画を策定し、毎年3億7,000万円もの更新費用が見込まれている。令和4年度予算では、近年漏水等の被害が多い箇所を選定し管路更新5路線と施設の電気・機械設備等の更新を予定している。しかし、料金収入の低迷から更新費用が財源不足となり建設改良工事の実施が厳しい見通しとなっている。水道インフラを維持管理し次世代に残すためには、水道料金の値上げをせざるを得ない状況になっており、抜本的な見直しが必要と考える。

質問 整備計画に対して、平等性は保たれているのか。（不平等感が生じていないのか。）

答弁 現在実施の卒田地区未普及地域解消事業が令和7年度完成予定となっている。以降は、意識調査実施の上、優先順位を決定する。事業実施の判断は、即時加入が最大の判断材料になることをご理解いただきたい。

（西宮三春記）